

自己評価及び外部評価結果

〔事業所概要(事業所記入)〕

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社 グループホーム幸		
事業所名	グループホーム 幸		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	平成23年2月18日	評価結果市町村受理日	平成23年5月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000952&SCD=320
-------------	---

〔評価機関概要(評価機関記入)〕

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年5月1日

〔事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)〕

ホーム理念である今日一日を楽しく愉快地に朗らかに支援することをモットーとし、1人ひとりが孤独にならないよう努めております。
また、毎日午後より簡単なレクリエーションを行い、気分転換を図ったり、天気の良い日には、庭散歩を楽しみ健康のための工夫をしております。

〔外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)〕

「グループホーム幸」は、小樽駅からバスで10分ほどのバス停前に位置した、自然豊かな環境に恵まれた事業所である。居間の大きな窓からは戸外の景色を見渡すことができ、開放感が感じられる。清潔面やプライバシーにも細やかに配慮し、トイレにはドアとともにカーテンが備え付けられている。運営者でもある管理者は看護師としての経験が豊富であり、各利用者の状況に応じて専門医を受診するなど健康面にも配慮している。地域との交流も、一人暮らしの高齢者や子供たちなど、年齢層に応じて年間計画を作成して積極的に行われている。各種マニュアルの整備や記録も充実しており、詳細に記録されている介護計画や日々の記録は高く評価に値する取り組みが行われている。理念も毎朝唱和することで理解を深め、職員間で連携を取りながら利用者が日々楽しい生活を送れるようなケアに取り組んでいる。管理者は各職員とのコミュニケーションを重視して意見や提案を聞き、日々の運営に反映させるように努めている。災害対策においても、計画的に2ヶ月毎に夜間想定避難訓練を実施したり、地震や水害に対する対応についても職員間で確認を行っている。馴染みの場所や知人との交流も積極的に継続支援が行われており、各利用者は理念に掲げるように朗らかに毎日を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員、管理者が、ホームの理念をしっかりと頭に入れ1日1日を意味のある生活にしようと努力しています。	「今日一日を楽しく愉快に朗らかに過ごせる様に支援します」「地域との交流を図ります」という理念を作成し、玄関や事務所に掲示している。毎朝唱和するとともに、管理者は毎月の会議で再確認したり、日々のケアと結び付けて職員を指導して、全職員で理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大きい行事の時、地域の方とホームでレクリエーションを開き地域の方と交流を深めるようにしています。	地域との年間交流計画を作成して積極的に交流を行っている。町内会の温泉旅行に利用者とともに参加したり、事業所の夏祭りに地域住民を招待している。幼稚園児が訪問して歌を披露したり、利用者と一緒に折り紙を楽しむなどの交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人達に少しでも認知症を理解していただけるように「幸便り」を発行し、理解を深めていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開いていただいて現状の報告をし、それを元にアドバイスを頂き日々の生活に活かしております。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、行事報告や災害対策、外部評価結果報告、身体拘束をしないケアについての実践報告などを行い、参加者と意見交換を行っている。現在、開催時間の関係上、参加者は町内会の役員3名のみになっている。	今後は開催時間なども考慮して参加者の充実を図って行きたい意向なので、その取り組みを期待したい。また家族に開催の案内や議事録を送付することで運営推進会議への理解を深めてもらい、参加や意見の集約に繋がるように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導や、わからない時にはすぐに電話や市役所へ行くなどして連絡を密にしております。	書類の記録方法を尋ねたり、提出で市役所を訪問するなど、わからないことがあれば随時相談を行いアドバイスを受けている。除雪や地域との連携などについても課題があればその都度連絡を密に取り、事業所のより良い運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームで働くすべての職員がやってはいけないことを頭に入れ毎日働いております。身体拘束をしないこと、基本にしているケアに取り組んでいる。	「身体拘束ゼロへの手引き」を整備し、毎月の定例会においても指導を行っている。また「禁句集」を作成して言葉による拘束についても指導を行い、管理者は気になる言葉かけがある時はその都度注意を促している。利用者の外出しそうな様子を察知したら、職員も一緒に出かけて安全面に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会があれば参加し、日頃より言葉遣い等に注意を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名、成年後見制度の対象となっている利用者がいる。成年後見人となった方とは、日頃より利用者の状態についての連絡を取り合っている。管理者はさらに制度について勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約についての説明を行ない、家族が理解、納得できるよう十分に配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者個別に声掛けして、日頃要望を聞くようにしている。家族には、面会時利用者の状況を伝え、ホームに対しての意見、要望がないか会話の中よりとらえる努力をしている。	家族が来訪した時は利用者の日々の様子を話して要望や意見が言いやすい雰囲気作りを行い、家族の思いを聞き取るように工夫している。家族からの意見や要望は連絡ノートに記録し、内容に応じて話し合いを行い、適切に対応できるように取り組んでいる。	家族との会話を利用者毎に連絡ノートと別に記載することで、家族の些細な言葉や思いを汲み取り、日々のケアに更に活かされるように期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティング後、必ず職員に問いかけ意見や提案を聞くように努めている。	管理者は日々のケアの中で各職員とコミュニケーションを深め、意見や提案を言いやすい雰囲気作りに配慮して、率直な意見が聞けるように工夫している。行事などは職員が中心となって企画し、勤務体制などについても職員の意見が活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は常に把握している。職員個々の特性、もてる力、努力を認め、働き続けていけるよう人間関係の力動にも注目、調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は月二回、全員が参加できるようシフトを組み学習会開催。協議会主催の外部研修にも、積極的に参加するように働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問の活動を通して情報交換、交流により、他ホームのサービス内容を学び向上の参考としている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人情報から得た内容を把握し、常に本人に話しかけ安心感が得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期において本人、家族を同伴時には支援事業所のケアマネとも連絡を取りながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応時、一日のADLの把握を中心に、食事、排便、睡眠、状況を考慮に入れ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日を通じ本人が出来ることは積極的にやって頂き苦楽をともに過ごせる雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1ヶ月に1度は面会に来て頂けるように、話し合いの場を設け、本人が今1番必要とするものを支援できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の方には、出来る限り面会に来て頂けるようにお願いしたり、馴染みの場所にドライブに行っている。	利用者により、友人や知人が訪問したり手紙のやり取りなど、馴染みの人との交流が継続できるように支援している。また、美容室や馴染みの店への買い物など、希望に応じて個別に事業所で送迎を行い、馴染みの場所との関係継続にも力を注いでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食後すぐに居室に帰ることのないよう、出来る限り話し合いの場を設けたり、レクリエーションを通じ楽しめる場を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了していても、家族との関係を保てるよう何か悩み事、心配事があれば連絡頂けるよう話をしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人ひとりの生活を大切に、出来る限り希望に沿った生活が出来る様に話し合っている。	利用開始時に家族や本人、関係者から生活歴などの情報を得て記録している。利用開始後は、日々のケアで得られた本人の思いや意向を詳細に記録して全職員で内容を共有し、介護計画や毎日のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々、1人ひとりに出来る限り、関わりと声掛けをし、不満のない1日を過ごせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間の許す限り、その人に合った一日の過ごし方を考慮したり、心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画においては朝の申し送り時利用者の話題についてどのようなケアが必要であるかの意見を出し合っている。	新規利用者の介護計画は2週間後に見直しを行っている。定期的な見直しは、利用者の言動を詳細に記録した日々の記録と、毎朝行っている介護計画とサービス内容の確認を基に3ヶ月毎に行っている。家族に介護計画の説明を行い、意見を反映した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は介護計画に沿ったケアを中心に行い、気づきや、ケアの変更、共有は、連絡、報告、相談を重要し実践に役立つよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりの一日のニーズ、家族の希望等があれば柔軟な支援が出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然豊かな環境、幹線道路がありバス停がある風景は利用者の目を楽しませ豊かな気持ちにさせてくれています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診において専門家を大切に、適切な医療を受けられるよう支援しております。	通院は各利用者の症状に合わせて専門医を受診している。看護師である管理者が受診支援を行い、「ホーム内の経緯」記録とともに日々の様子を詳細に担当医に説明して、適切な医療が受けられるように支援している。受診結果は各ユニット毎に個別に記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝と夕の情報の伝達は特に重要し看護師と相談をし適切な受診や看護が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるように、どの病院に入院した方がより効果的であるかを情報と経験から家族と話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームにおいて食事を食べれなくなってきた状態をひとつの目安とし、家族等の話し合いを強化し十分に説明を行なっている。	「重度化した場合における対応に係わる指針」を作成して、利用開始時に説明している。常時医療行為が必要になった場合は事業所でのケアは困難であることを説明し、家族に理解を得ている。基本的には看取りは行わないが、医師、家族、事業所で話し合いを行い、その都度対応を確認することになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より事故発生（誤嚥、転倒など）時の対応について話し合いをしている。時々、訓練も実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特に夜間時における火災訓練に重点を置き、3ヶ月に1回ホームでの訓練とし、年2回は消防署の協力を得ている。	昨年度は夜間の火災を想定した避難訓練を2ヶ月毎に行い、年間2回は消防署の協力の下に訓練を実施している。町内会の総会で地域住民に協力を依頼し、援助内容を確認している。地震や水害に対しても対応を話し合い、災害備蓄品を整備し、職員は定期的に救急救命訓練講習を受講している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共に生活していると、時に慣れが出てきて軽い会話になりやすいので言葉遣いは充分気をつけるよう話し合っている。	会話では本人や家族の立場になって言葉を選びながら話しかけ、名前は苗字に「さん」付けて呼んでいる。個人情報などの書類はプライバシーに配慮し適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より気軽に話し合えるよう心がけ自己決定が出来る雰囲気を作れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に実施して頂きたいことはよくみなさんと相談し、なぜ必要であるかを理解していただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装においては自由です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在2名の方に厨房の手伝い(準備、片付け)していただいている。	食材委託業者からの献立を見て、好き嫌いを把握して副食を代替することもある。月に1回は生寿司や刺身を提供し、誕生日には「ちらし寿司」と「ケーキ」が定番になっている。利用者は簡単な下拵えを手伝い、お茶運び、下膳、茶碗拭きなどを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者をお願いしているが栄養士がおこなっている。水分量は必要量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食時と間食の後に歯磨き、うがい行なっております。その人によって自力で、出来ない方は介助で行なっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンをチェックし人に応じて時間毎の誘導、排尿習慣を身に付けてもらう様支援しています。	排泄チェックシートで個別のパターンを把握し、トイレに誘導している。自立している利用者を見守り、失禁がある場合は声かけの促しでこまめに対応している。トイレへの声かけはトーンに注意し、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かす運動を毎日行い、食事に工夫し食べてもらい、歩行運動、屈伸運動行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に曜日と時間帯を決めているが、本人が希望した場合その限りではありません。	ユニット毎に入浴日を決め、基本的には一人週2回とし、午前中に入浴を実施している。希望や状態に応じて曜日を代えたり、午後に入ることもある。入浴を嫌がる利用者には、職員が交代して声かけをして入浴できるように工夫している。必要な時は足浴や清拭も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの状況や、希望があればいつでも休息をとって頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理はホーム側で実施しているが、副作用、用法は理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今日1日を楽しく、愉快地に朗らかに過ごせるようにレクリエーション等を通じ、気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームで使用する日用品等を買いに戸外に出かけるようにしている。又、家族との協力を得て外出を行なっている。	夏場は天候を見て毎日のように公園や周囲を散歩している。元気な利用者は20分以上かけて町内を歩き、車椅子使用の利用者も周囲の散歩や庭で外気浴を楽しんでいる。年間の外出行事の他に、個別の希望に応じて、カラオケ、美容室、買い物などの同行や送迎を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時、自分が買いたい物があれば支払いは本人にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは、全く自由にやって頂いております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの居室は東と南側にあり、明るさを保持している。ホームは幹線道路に面しているが、騒音を感じない庭は広く、木及び花を楽しむことができる。	居間、食堂などは、四方面の窓から高台にある住宅や外の自然が見渡せる明るい空間となっている。玄関もガラス戸になっており、開放感がある。広い庭を眺めたり、共用空間に観葉植物を多く取り入れるなど、自然に親しむ心地よい環境になっている。トイレのドア内側にカーテンを取り付け、プライバシーにも配慮されている。温度、湿度計で環境を調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームでの1番広い場所は食堂であり、そこには事務所、厨房があり常にヘルパーがいたり、他利用者がいるのでいつでも話し合える雰囲気がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個人が自由に使用しても良いという条件になっており、家より使用していた物を持参されている。	事業所は居室前の廊下に各利用者のボックスロッカーを用意し、居室内には、ローチェスト、温湿度計などを備えている。居室は外の景色が眺められるように配置しており、明るく過ごしやすい空間になっている。壁には家族や趣味の写真を貼ったり、音楽プレイヤーを置くなど、その人らしい居室作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者との関わり、見守りの中で個人同志のトラブルを感じたり、何か不自由な面があれば相談相手になり、自立した生活が送れるように気配りに努めている。		

自己評価及び外部評価結果

〔事業所概要(事業所記入)〕

事業所番号	0172000952		
法人名	有限会社 グループホーム幸		
事業所名	グループホーム 幸		
所在地	北海道小樽市清水町20番9号		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町村受理日	平成23年5月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000952&SCD=320
-------------	---

〔評価機関概要(評価機関記入)〕

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年5月1日

〔事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)〕

「1階 りんごユニット」に同じ

〔外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)〕

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの時、毎日ホームの理念を声に出して言い、日々の実践に向けて努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏の間は散歩などで外へ出た時に近所の方々と会ったとき等に挨拶をして交流している。ホームの行事にも参加していただいています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「幸便り」を町内会の方々に出して見て頂いたりして認知症の方々の理解を地域の方にもわかって頂く様にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、ホーム内の様子を写真に撮り生活や行事を見ていただき、その意見を頂く様にしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険法に基づく、運営の疑問点があれば市の担当者に聞き、疑問点を解消するようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、今後身体的に危険を及ぼすことが出現した場合、主治医と相談しながら考えていきたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待についての研修などに参加し、虐待の防止について学ぶよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去において学ぶ機会があった現在1人後見人制度ではないが保護司として世話になっている方がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約について説明は管理者が行い疑問点がないように十分な説明をすることを心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時かならず何か意見、要望がないか聞いている。又話し合いが出来るような雰囲気を作っていくような努力をしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティング後かならず職員の意見を聞くよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表は出来る限り個々の希望を聞くよう努めている。また向上心を持って働き努力すれば給料の面にも結果が出て来ることを話している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修において、月2回会議を含めトレーニングを行なう努力をしている。(全介護員が知ってもらうため)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の勉強会は、ホーム協議会の制度を利用させてもらいサービスの向上に努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始の段階で利用者の方と会話を通じて情報を得て安心して生活出来る様に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始の前後で家族の話を聞く機会を設けサービスにつなげられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応においては十分に時間をとり説明し、家族とホームが協力しながら実施していかなければいけないこと等を説明しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を通じどんなことでも話し合える環境を作り人間関係を保ちながら信頼感が作れるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との間に出来る限り考えが一致するよう、家族の気持ちになった感じ方が出来るよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも出来るように時間、場所等は利用者と面会者にまかせている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者の性格を把握し孤立をしないように配慮している。時に、1人ひとりが孤立しないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院している病院へ行くとか面接に行ったり、年賀状のやりとり等を行なっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームの生活が集団で生活するのではな1人ひとりの生活を大切にしながら生活して頂けるよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限りホームでの生活環境(時間・場所)を変えないで過ごして頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的には生活の過ごし方は自由にして生活していただいてる。しかし体力低下にならないよう体操、散歩に力をいれている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一日を通じ身体的、精神的に変化が著しい1人ひとりの話題を取り上げ現にした計画を立てるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいてサービスケアを行い、結果及び気が付いたこと、感じたこと等を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	朝のミーティング時24時間を通じ生まれるニーズに対応、既存ばかりではなく緊急に対応が必要なサービスには積極的に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の運動会、学芸会、地域のお祭り、張るには桜を見たり、サクランボ狩りに行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その人、その人に合った症状に対応出来る専門医の受診を受けるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は看護師であり、毎日朝のミーティングの時に利用者の状況を把握し、適切な受診が出来るよう心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期入院(3ヶ月)時、一週間に一度は面会に行ったり病院の看護師より情報を得たり(個人情報にて得ることが少ない時は家族を通じ)しながら、家族は安心感が得られるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢者が多い為、特に初期の時充分に話し合う機会を設けている。重度化に陥った場合はその家族の状況に合った対応に心がけている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の必要に応じて初期対応の訓練(喉詰まり等)を行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練においては夜中心の出火を中心に避難訓練を年4回、自主的に2回消防署指導で行なっている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	非言語的コミュニケーション(言葉遣い、表情、視線、身振り手振り、声の大きさ、話すスピード等)に対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ること、出来ないことを話し合い理解していただけない時は、家族と共に話し合うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活を大切に、マイペースで生活が送れるように無理をしないよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれにおいては、利用者の自由で選べるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根とりをしていただいたり。お茶入れや茶拭き等を職員と一緒にこなっております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者から購入している。(栄養士が献立を行なっている) 水分は、水分チェック表を実施し必要量を飲んでいただけるよう勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来ないところは介助し、出来るだけやっていただけるように介護しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の多い方は毎日の失禁パターンをチェックし、失禁時間帯にトイレ誘導することにより、自立に向けてのサービスをおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、便秘になら無い様に水分を多目に飲んで頂いたり廊下を歩いていただいたりと、便秘気味の時は下剤を飲んで頂く。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日や時間帯は決めているが本人が希望すればそのかぎりではない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はほとんど食堂で過ごされているので身体的、精神的にも把握しやすいので状況に応じて休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は介護記録に文献が貼ってあり目的、副作用が理解出来る様になっている。薬の増減については、特に注意し申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションを通じ何をやりたいかを聞いていたり、おやつは何を食べたいかを聞きながら希望に沿える様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季以外の天気の良い日はかならず庭散歩をしていただき日光、自然の空気に触れるよう努めたり春夏秋冬には公園等に出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はホームでやらせて頂き（家族と話し合った結果）買い物時は希望に応じてか、応じて渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すればいつでも家族、知人、友人に電話したり手紙をやりとり出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日9回居室の温度、湿度チェックと、浴室には暖房があり快適に過ごせるようにしている。季節ごとのイベントにはデイルームに季節感のある飾り付けをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームの席は、気の合う利用者同士が近くなるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	音楽が好きな人は居室でCDが聴けるようにプレイヤーを置いていたり、以前本人作った作品を置いたり、若い時の思い出の写真が飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事務所から各利用者の居室が見渡せるようになっており安全には見守りを大切とし、手すりがある。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム幸

作成日：平成 23年 5月 15日

市町村受理日：平成 23年 5月 16日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議において、利用者家族並びに地域の方に、会議に参加して頂ける人数が少数であるため、地域に根ざしたグループホームに至っていないのではないか。	地域に根ざしたグループホームを目指す意味においても、もっと多くの人に参加して頂きたい。	①会議の前には必ず利用者の家族に参加への案内状を送付する。 ②地域包括支援センター並びに消防署等の方々に参加して頂けるように連絡をする。 ③町内の役員の方々にも引き続きお願いする。	1年
2	10	家族の方々は一部を除いて約1ヶ月に1度程度の面会に来て頂けるが、ホームの改善方法や利用者及び家族の思いが伝わってこない。	日々の暮らしの中で利用者及び家族の気持ちが汲み取るようにして、その気持ちをホームでの介護に生かせるようにする。	①家族の些細な言葉や思いを汲み取り、個々の家族の意見ノートを作り、それぞれの利用者に対して意見を尊重した介護が出来る様に取り組む。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。